

令和3年度 地域医療実習を行った医学生へのディプロマ・ポリシー (DP/卒業時の学修成果目標)修得状況【結果】

アンケート内容: 医学科6年生のDP修得状況を調査

実施方法: googleフォームを使用して、web上で実施

実施期間: 令和3年6月8日～6月18日

対象学年: 医学科6年生(合計: 108名)

地域医療実習病院: 84病院

回答数: 31病院(36.9%)

依頼内容

山口大学医学部医学科は、平成29年度にディプロマ・ポリシー(DP/卒業時の学修成果目標)を改めました。所定の期間在学し、必要単位を修得した上で、ディプロマ・ポリシーで定めた知識・能力を身に付け、最終試験に合格した学生に「学士(医学)」の学位を授与しております。また、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成のため、特色あるカリキュラムを編成しております。

このたび、貴院で実習を行った医学科6年生における、実習時点でのディプロマ・ポリシーで定めた知識・技能・態度等の到達度を調査し、今後の医学科カリキュラムの改善に活用したいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケートを実施させていただきますので、ご多忙中とは存じますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、率直なご意見をご回答くださいますようお願いいたします。

なお、回答いただきました内容につきましては、統計的に処理し、個別の内容を公表することはありません。

山口大学医学部医学科ディプロマ・ポリシー

<知識・理解>

1. 医療基盤力
2. 地域・国際対応力

<態度・技能・志向性>

3. 医療プロフェッショナリズム
4. チーム医療力とコミュニケーション能力
5. 自己開発力

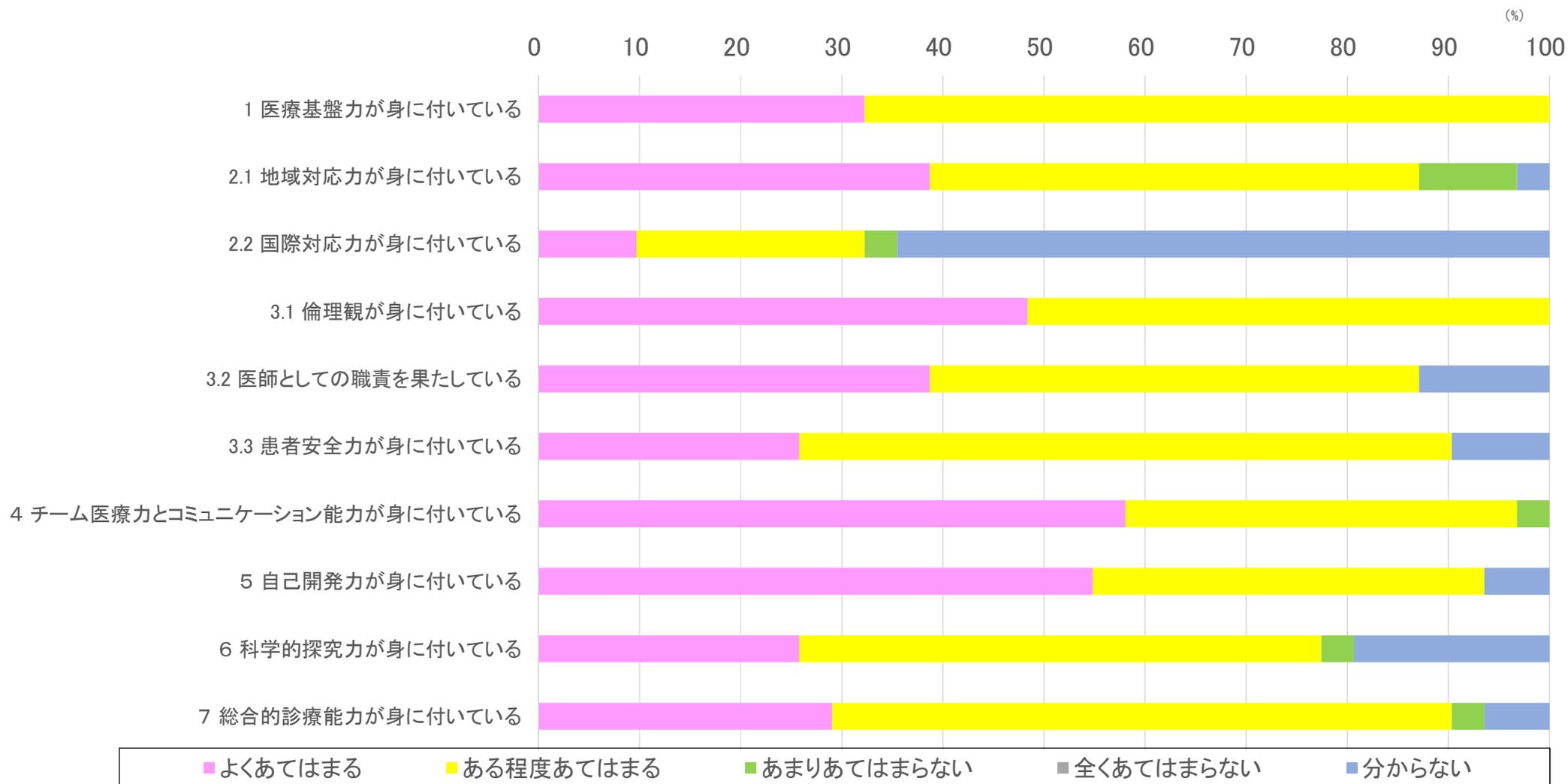
<総合力・創造力>

6. 科学的探究力
7. 総合的診療能力

問1 地域医療実習でご指導いただきました医学生について、医学科6年生の4月の段階で修得できているレベルとして、以下の項目をご評価ください(複数名実習を受け入れていただいた場合はおよその平均でお答えください)。

回答結果

令和3年度 地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー(DP/卒業時の学修成果目標) 修得状況について



問2 上記項目に関して、特に高く評価できた点や不十分と思われた点があれば、その理由となった経緯(実習中の知識、技能や態度等)も含め、差し支えない範囲で自由にご記入ください。

回答結果

医療基盤力があり、医師の職責をよく理解している。態度も真摯で、患者さんとのコミュニケーションにも、優れている。

地域実習の範囲内では、国際対応力や科学的探究力については評価が困難だった。

国際対応力を問う場面がなかったので「0」と回答しますが、多くの引き出しを持っている方で視野も広がったので、時代の変化や国際化に対応できるのではないかと想像しています。

実習に際しては積極的に取り組んであり、態度も好ましいものであった。

患者面接では非常に丁寧に問診をとり、医師としての職責を果たす態度は高く評価しました。

目の前の症例や患者に対しての洞察や考察が深く感じられた。

コミュニケーションをしっかりとられていたので好感が持てました。

医師や他の職種スタッフとのコミュニケーションがスムーズであった。

周囲との関係性や協力する態度は非常に良好であり、後々の良好なチーム医療に繋がるものと期待できる。

学習意欲の高い生徒が多かったです。

熱心に実習されておられました。

探求心が強く、積極的でした。

高い評価。不十分だと感じた点はありません。

問3 その他、山口大学の医学教育に対するご意見、ご希望等がありましたら、自由にご記入ください。

回答結果

実習に来られた学生さんは、向上心があり、礼儀正しく、コミュニケーション能力の高い方でした。

なんとか現状の人的医療資源を確保いただくようお願いいたします。

今後も山口県の地域医療を担う人材を育てて頂ければと思います。

短期間の実習では評価は困難です。

このアンケートを事前に確認して、その項目を評価するための課題を与えたほうがよかったかもしれない。

アンケートは早めにお願いたします。

幅広い分野の研修を取り入れていただければと思います。

教育方針の方向性や中身が変化する中、大変なご苦労かと思いますが、基本的な方向性は堅持しつつ必ずしも画一的にならず自由な発想での学校教育で宜しいかと思っております。

当院での実習が、医学生の地域医療に対する理解が進むことの一助となれていれば幸いです。

実習された医学生の感想文を拝見しましたが、医学教育センターからも当院での実習に関する要望、改善点などがあればご連絡いただきたいと思います。